

▼担当
麻生、封戸
▼出身地
大字長洲

なるみ あつし
鳴海 敦さん



登山道整備に挑戦



チャレンジ教室で児童と交流

こんにちは 地域おこし協力隊です

問合せ/まちづくり推進課 コミュニティ係 (☎ 27-8237)

このコーナーでは各地域の課題解決や情報発信などまちづくりを支援する地域おこし協力隊員をご紹介します。

私は音楽が好きで、前職はコンサートプロモーターという仕事をしていました。日南市(宮崎県)で、野外音楽フェスを開催した際に、協力隊の方々と一緒に仕事をする機会がありました。そこで、協力隊の制度を知り地元に戻るきっかけになると思い、宇佐の協力隊に応募しました。

現在は、担当地域のイベント広報活動や運営支援をしています。時には、登山道の整備で土まみれになりながら山中を歩き

回るなど業務は多岐にわたりますが、毎日楽しく貴重な経験をしています。「何事も経験」をモットーに在任期間中はさまざまな経験を積み、成長していきたいと思っています。

また、前職の経験を生かし、音楽イベントや個人的な趣味であるサウナイベントの開催などを企画できたらいいと考えています。

多文化共生ひろば

問合せ 秘書広報課 多文化共生・交流係
(☎ 27-8240)

このコーナーでは、宇佐市の外国人住民や支援者、市の取り組みなどについてご紹介します。みんなが暮らしやすい多文化共生社会を作るためにまずは知ることから始めませんか。

私は、宇佐の日本語教室で勉強をしています。先生方は優しく丁寧に教えてくれて知識を得るだけでなく、お米や野菜・果物、パン・ケーキなどのおみやげをもらいます。ある日、先生から「落花生を掘りに行かない？」と誘われました。最初はお手伝いだと思いましたが、全部掘ったあとに畑の人から「全部持って帰っていいよ」と言われました。また別の日はお弁当やケーキ、たくさんのパンなどももらいパンが入っていた箱を先生と返しに行ったときに「少しでごめんね、お勉強頑張ってるね」と初対面なのに私たちのために朝早くからパンを焼いてくれるとてもやさしい人もいます。家族と離れて外国で働くのは大変ですが、私の周りには良い人がいっぱいいます。どうやってお返しをしたらいいのか分かりませんが、いつか私も困っている人がいたら、手を差し伸べられる人になりたいです。

名前 チャンティフォンアインさん 国籍 ベトナム
住所 南宇佐 職場 マレリ九州(株)

お便りをくれた方

明治10年4月1日、中津から侵入した増田宋太郎率いる中津隊は、四日市・駅川の官公署などに続き、南宇佐の用務署を襲撃、吉成家や南一郎平の高森の家屋を焼き払います。翌日、大分に向かい府内城の県庁を攻撃しますが、固い防御に阻まれ攻略できず、由布院、阿蘇を経て5日、西郷軍と合流します。しかし、その時西郷軍は熊本の上原坂の攻防に敗れ、撤退を余儀なくされていたのです。

一方、別動隊を指揮していた松本大五郎は軍資金調達や募兵のため宇佐に残りますが、豊後高田の民衆に竹槍で刺され落命。宇佐に吹き荒れていた農民一揆は、東京警視隊の応援により、6日、ようやく鎮圧されま

岡の和田越の戦で政府軍に敗れると、西郷隆盛は陸軍大将の軍服を燃やし、解軍を命じます。中津隊も解散となりますが、増田宋太郎は「一日先生に接すれば、一日の愛生ず。三日先生に接すれば、三日の愛生ず」として西郷と生死を共にしました。

西南戦争は士族の反乱でしたが、色濃く残る封建時代の搾取や新政府の急激な改革などに苦しむ農民らがそれに乗じた一面もありました。反政府勢力の期待を一身に受けた西郷でしたが、鹿児島で最期を遂げると、その後は言論により新政府に対抗する自由民権運動が展開されます。



『宇佐ふるさとの歴史』より農民一揆

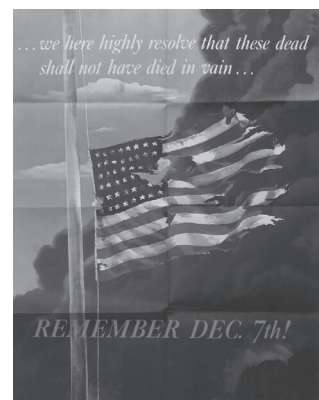
平和ミュージアム(仮称)開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは、戦後75年以上経って体験者の声は薄れゆく中、戦争の実像を伝えるためにこれまでで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

54 米国戦時ポスター 星条旗

真珠湾攻撃後、米国政府が国民向けに戦意高揚を図ったプロパガンダポスターです。「死を無駄にしないように強く決意する」という言葉とボロボロになった星条旗や爆弾を受けた軍艦の煙が描かれています。戦死者を悼むとともに、真珠湾攻撃の報復を必ず行うという、日本に対する敵がい心をあおる内容となっています。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係 (☎ 27-8199) にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室 (☎ 27-8200)